



1. 4ヶ月間の『学思行』 羅針盤が導く伝統への一歩～第2回兔原祭開催～

去る9月12, 13日に一般公開として第3回目、「兔原祭」として第2回目の本校文化祭が開催されました。穏やかな天候にも恵まれ、2日間合わせた来校者実数は延べ4500人を超えました。

今年度の全体テーマは「羅針盤」でした。このテーマには、「羅針盤は、未開の地を開拓する際に用いるものであり、兔原祭という未開の地をこれから開拓していく」という全11局から構成される兔原祭実行委員会の想いが込められています。実行委員のメンバーは、第2回兔原祭終了後からこれまでの期間、他校の文化祭視察も行いながら、より良い本校の文化祭づくりを目指して1年間活動してきました。

本校の兔原祭の大きな特徴は、①実行委員の手によって生徒主体で作られることと、②各クラスがそれぞれ企画を実施することにあります。

1つ目については、今年度の兔原祭では154名の生徒が実行委員会11局に所属し、実行委員三役の統括の下で、各局長がリーダーとなって生徒どうしが協力して業務を進めました。このような生徒主体の運営方式について、学校長は「生徒たちは、この日のために、昨年の文化祭終了時より、実行委員会を中心に着々と自主的に準備を進めてきました。本校の教育理念である「自治」を、生徒たちは身をもって実践してくれています」（兔原祭パンフレットより引用）と述べています。

また、2つ目については、他校では企画を行うのは有志団体のみである場合もありますが、本校では各クラスがひとつの企画を作り上げることを通してクラスの団結・協力を目指し、学校生活のさらなる充実を図っています。

そのような方針の下で、今年度は初めて学年ごとにテーマ性、共通性を持った企画を展開しました。前期課程生は地域や国をテーマとして、これまで以上に来場者をもてなすことを意識した企画を作り上げました。一方後期課程生は、よりレベルの高い目標を設定し、4年生は「繋がり」、5年生は「演劇」、6年生は「食販」に取り組み、これまでになかった試みに果敢にチャレンジしてくれました。

その一方で、まだ「伝統」のない本校においては、成果以上に課題も多いのが現状です。10年後、20年後の文化祭がどんなものになっているのか、今は想像もつきませんが1年ずつ改善を重ねていった結果残っていたものがいずれ「伝統」になっていくのだと思います。第3回兔原祭に向けた有志組織「Togen Festival Project Team2016（通称TFPT）」はすでに動き始めています。3回生から4回生へ運営主体を繋ぎ、また新たな「伝統」への一歩を踏み出し始めます。

最後に、第2回兔原祭実行委員長の感想で締めくくりたいと思います。

「今年度の兔原祭は、これまでと少し形を変え、各学年にテーマを設定しそれに沿って企画を実施してもらいました。テーマである「羅針盤」の下、新しい試みを通じて第2回兔原祭を「開拓」してほしいと考えたからです。今回、実行委員長を務める中で新しいことを「開拓」するのはとても難しいことだと実感しました。新しい企画を実施するにあたり、たくさんの壁にぶつかり、そして立ち向かいました。実行委員会としては出来る限りの準備を整え当日を迎えました。2日間通じて4000人を超えるお客さんにお越しいただきましたが、当日になって初めてわかる問題点もたくさん明らかになりました。来年度は私達の後輩が、これまで以上の兔原祭を作りあげてくれると信じて、バトンを引き継ぎたいと思っています。（兔原祭実行委員長、久保田心）」